



学校通信

豊地っ子だより

～ 考える子 はげましあう子 つよい子 ～

令和3年9月1日

No. 5 三木市立豊地小学校
<http://www.miki.ed.jp/el/toyoti/>

自尊感情を育む大切さ はげましあう子の育成に向けて！

緊急事態宣言が9月12日(日)まで発令されました。手洗いの励行やマスクの着用の継続的な指導、換気の徹底、感染リスクの高い教育活動の一時的な停止を行いながら、子どもたちの健康安全を考えて教育活動にあたっていきます。引き続きの感染症対策へのご協力をお願いいたします。詳細については、本日配布しています「緊急事態宣言を踏まえた新型コロナウイルス感染防止の徹底について」をご覧ください。

さて、先月、大阪教育大学で教鞭を執られていた園田 雅春 先生のご講演をオンラインで聴きました。講演の主な内容は、自尊感情を育むことで、学びに向かう力(学欲)や人権感覚を養うことができ、「学欲」や「人権感覚」の源泉が自尊感情であるということでした。

日頃、私たち教職員は学校生活の中で、子ども同士の間関係を肯定的につなげようとしています。困っている子どもがいたら、「大丈夫、しんどいの？」などの声掛けをしたり、いっしょに相談に乗ったりする子どもを育成しようと指導しています。園田先生は、「育むチャンスはつねに目の前に」と語られ、人権感覚の源泉である自尊感情を育むチャンスを逃さないようにすることが重要であると熱く語られました。

例えば、学習中、問題の解き方が分からないで困っている友だちがいたら、「先生、待ってください。まだ、問題が解けていない子がいます」と発言した子どもがいたとします。その場面を捉えて、発言した子どもの行動を褒めます。そして、なぜ、褒めたのかを説明して、その子どもの行動のすばらしさを肯定的に評価していきます。

しかし、園田先生はもう一つ褒めることがあると教えてくださいました。「先生、待ってください」と言える学級の雰囲気形成しているのは所属しているクラス全員の子どもたちである。だから、クラス全員の子どもたちにも、「分からない子どもがいたら発言できる温かいクラスの雰囲気がある。そんなクラスを作っているのは、みんなだよ」と学級集団を肯定的に評価することで自尊感情を育てることができると教えてくださいました。

家庭での子育てについても同じような場面があるのではないのでしょうか。

兄弟姉妹の間柄や父母・祖父母と子どもとの関係の中で、優しい行為があった場合、その当事者を褒めるのと同時にその優しさを発揮できた兄弟姉妹や家族の関係性など、温かい家庭環境にも目を向けて子育てをしていくことが大切ではないかと考えました。また、勉強や運動、習い事などで子どもが努力して達成できたことについて、その努力の「過程」を褒めると同時に後押しした家族の温かい言葉かけや態度にも着目して子育てをしていく必要性もあるのではないかと考えます。

さて、今年度で星陽中学校は閉校になり、本校の子どもたちは三木中学校に進学することになります。一学年の子どもの人数は多くなり、外国籍の子どもたちとも同じ学級で生活することになります。他国の文化や生活習慣の違いを認められる心を育んでいかなければなりません。将来、子どもたちが社会人として働くときに、中学校での経験は大きな財産になるでしょう。

そのためには人権感覚の源泉である「自尊感情」の育成は欠かせることができません。自分のことが好き。自分の得意なことが分かっている。努力している自分が好きなど。自分を大切にできる感情を育成していくことで、相手のことを認め、思いやることができます。

10月6日(水)には例年通り親子人権学習や人権集会を開催いたします。学校と家庭が連携することで、自尊感情を高めることができます。後日、各学年での取組についてお知らせいたしますのでご協力をお願いいたします。本校の人権教育の取組について引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和2年度 人権集会の様子

学校長 善村 龍昭